

灯る街の輝きに誘われて

～復興した東北を巡るジャルバくんふれあい旅～

日本三景

松島

Matsushima



美しい景勝地から ジャルバくんの旅がスタート

観光シーズンを迎えた東北地方。各地をゆっくりと巡るには自由に行動できるキャンピングカーがベスト。そこで、最終目的地の南三陸町を目指して、ジャルバくんがふれあいの旅に出発。まず最初に訪れたのが、小さな島々が湾内に浮かび、美しい景色を見せる松島。キャンピングカーを駐車場に止めて海を見てみると、その穏やかな光景に心が癒やされる。今回は東日本大震災から復興する街の景色を見てみたい、という強い思いもあって実現した一人旅。そこには1つ1つの景色を目に焼き付けるジャルバくんの姿があった。



今回一人旅のジャルバ君。観光で来ていたお姉さんと意気投合。渡月橋をバックで記念に1枚。緑結びのパワースポットとして知られる松島で、この渡月橋は「悪縁を断つ橋」とも呼ばれている。



みんなを元気にする キャラクターたちに出会う

旧最上川の中洲にあるのが石ノ森萬画館。海から近く、津波の被害を受けたが、多くの人の応援とサポートにより復活した場所。たくさんの漫画家たちから寄せられたメッセージが今でも大切に飾られている。



石巻

石ノ森萬画館

住 所：宮城県石巻市中瀬2-7 電 話：0225-96-5055

休館日：毎週火曜日 営業時間：9:00～17:00

<https://www.mangattan.jp/manga/>

灯る街の輝きに誘われて

～復興した東北を巡るジャルバくんふれあい旅～



雄勝港 Ogatsu Port

大きな防潮堤が新たな景色を生む

海岸線では、いろいろな防災対策が施されている。石巻市の東に位置する雄勝港も震災前とは違った風景が広がっていた。海岸線を覆うような防潮堤が建設されている。海側に回り込むと、整備された港が岬の先端まで続き、目の前にはきれいな海が広がる。大きな防潮堤が音を遮っているのか、静かな波音しか聞こえてこない。これが震災から10年以上が経過した2022年の景色。確実に復興が進み、新たな街が作られようとしているのが分かる。今後の変化も気になるところだ。

道を走っていると時折目にする「過去の津波浸水区間」の看板。かなり内陸のほうかと思う場所にも設置されており、津波の威力にただただ呆然とさせられる。



高級丸ズワイ蟹も入っている海鮮丼(1,900円)。うに付きは2,700円。丼に入っているタコは南三陸名物。アワビなどの一級品を食べて育つと言われ、「西の明石、東の志津川」と呼ばれるほど。



南三陸 Minamisanriku

食事処 松原

住所：宮城県本吉郡南三陸町志津川本浜町109 電話：0226-46-2433
定休日：毎週月曜日 営業時間：11:00～14:00 / 17:00～20:00 / 木曜昼

自然豊かな秘密基地風RVパーク

東北旅の中継地点として利用できる便利なRVパーク。クルマで5分の場所に秋保温泉があり、「一日1万個売れるおはぎ」で有名な「主婦の店 さいち」もある。10分圏内には秋保大滝、キャンプ場、作並温泉、ニッカウキスキー仙台工場等観光地も豊富。近くに釣り堀があり、近くの名取川では、夏に川遊びも楽しめる。

RVパーク 仙台秋保

住所：宮城県仙台市太白区秋保町長袋字下川原1-12
電話：090-5074-4546
料金：1泊 3,850円 / 1台(トレーラー含む)



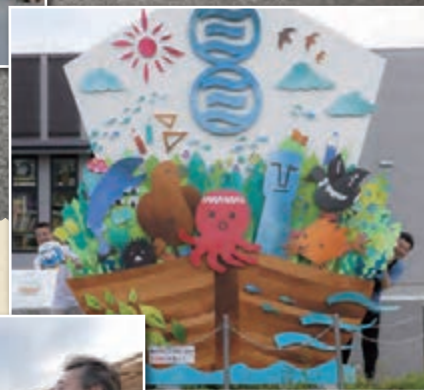
灯る街の輝きに誘われて

～復興した東北を巡るジャルバくんふれあい旅～



南三陸 さんさん商店街

Minamisanriku
San San
Shopping Street



復興の光が街を照らす

ゴールに設定したのは南三陸さんさん商店街。「サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたい」というコンセプトで、2012年2月25日に仮設商店街としてオープン。そして、2017年3月3日に本設オープンした場所だ。今回の旅をサポートしてくれた、トイファクトリーの千葉さんとデルタリンクの小島さんともここで合流して、一緒に商店街を散策することになった。お土産屋さんから食堂まで、そして、地元の人々の生活をサポートするショップなどが、大きな建物に軒を連ねている。目の前に港があるので、タコなどの新鮮な海産物が充実。贅沢な丼ぶりをリーズナブルな価格で食べられる南三陸のブランドグルメ「南三陸キラキラ丼」を提供している食堂もたくさんある。

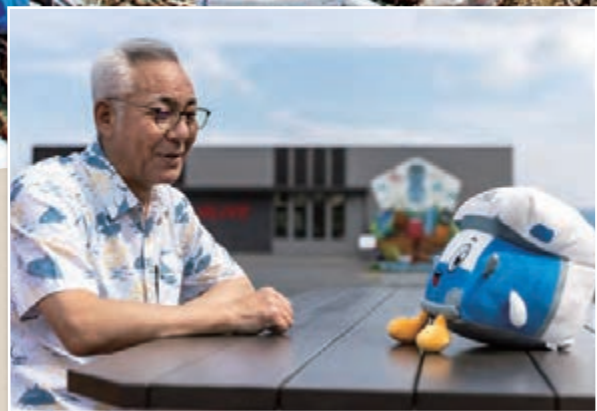


二人が食べているのは宮城名物・ずんだ餅ならぬ「ずんだソフトクリーム」。豆の風味がほんのり香る逸品。coffee & curry 月と昴にて500円で販売中。



商店街の横に志津川湾を一望できる展望台がある。以前の街並みは消えてしまったが、震災遺構となった旧防災対策庁舎を残す震災復興祈念公園が広がっている。その光景が津波の脅威を伝えていた。今だに復旧整備工事が続くなか、力強く復興する街の姿にジャルバくんは目を奪われた。

震災体験がきっかけで キャンピングカーオーナーに



「もしかしたら流されていたかも」
情報の大切さを感じた震災体験
すべてが止まった時、必要なモノが見えてきた

きれいな景色を楽しみながら北上してきたジャルバくん。しかし、震災から10年以上経過しているのに、震災遺構があったり、変わってしまった街並みがあったことに複雑な心境だった。そして最後に、東日本大震災を経験したキャンピングカーオーナー鈴木康憲さんと待ち合わせて、貴重な当時の体験を聞くことに。

鈴木さんはアネックスのリバティ52に乗っている。キャンピングカーに乗るきっかけは東日本大震災での体験だった。震災当時、自宅は高台にあったため、被害は周りと比べて少なかったが、自宅で介護していた父親がいた。「被害は少なかったと思いますが、家にあるものがすべて倒れて、父親の介護が続けられない状態になってしまいました。すぐに病院に行くことを決めましたが、ラジオで津波が来ることを知ったのです。当時は乗用車に乗っていたのですが、病院までの道順を変更して、津波の影響を受けないルートを探しました。そのまま進んでいたら、津波に呑み込まれていました」

病院に着くと、施設は停電していて、病院の機能は制限されていたという。しかし、父親の入院だけは受け入れてもらえたので一安心。そこから自身の避難生活がスタートした。「水、ガス、水道、全部が止まってしまって、トイレをするのも困りました。食料はがれきの下から探して、なんとか確保しましたが、お風呂に入れないのが辛かったですね。都市ガスだったので、復旧まで1ヶ月かかりました」

自宅に大きな被害がなくても、ライフラインがストップしてしまったことが大変だったという。そして、その生活が続くことで疲労も重なった。「当時はキャンピングカーで避難している人もいて、私も次はハイエースなどの大きなクルマを買おうと思いました。何よりも、自分だけの空間が確保できることに魅力を感じたのです。そして、被災時は自分でライフラインを確保する必要があると実感しました。偶然、耳にしたラジオで助かったこともあり、情報を入手できる環境が必要であることも感じています」

そして、必要と思っていた機能性を詰め込んだキャンピングカーオーナーになったのだ。「このクルマはボイラーが付いているので、いつでもシャワーを浴びられます。食事も作れますし、トイレもあって、移動する家の部屋を手に入れたようです。リチウムイオンバッテリーでエアコンも稼働できるので、いつでも、ここで数日間暮らせるので、いざという時の安心感を手に入れました」と語ってくれた。



オーナー鈴木康憲さん
防災時に何が必要かを追求して手に入れたアネックスのリバティ52。防災に対する安心を手に入れながら、趣味のキャンプや釣りをこのキャンピングカーで楽しんでいるという。